

## 1 発達障害の基礎 ——子どもの理解と支援——

講師：愛知県総合教育センター 溝口克治

### (1) 発達障害について

特徴、特性を知るとともに、長所を伸ばすことが大切。

### (2) 「気になる行動」の要因のとらえ方

表面に見える行動だけでなく、背景の要因をとらえることが大切。

### (3) 子どもの実態把握の指標(心理検査の活用)

発達障害のある人は「ワーキングメモリー<sup>注1</sup>」が弱いと言われている。

### (4) 学校における指導・支援(例)

書くことが苦手なA君、集中力がないB君、パニックを起こすDさん。

### (5) 通常学級における特別支援教育のポイント

気になる子の周囲を育てる。

注1 情報を一時的に保ちながら操作するための構造や過程を指す構成概念。**作業記憶**、**作動記憶**とも呼ばれる。

## 2 分科会

### (1) 小学校体育

ADHDの対象児童を一人あげ、その児童の所属するクラスの体育の授業で起こりそうな「困った」行動を、教師の立場から予想し、その行動の理由を対象児童の気持ちになって考え、支援法を話し合った。

#### ① 教師や友達にとって困った行動

- ・友達をけったり、押したりする。
- ・どこかに行ってしまう。そうすると授業を中断せざるえないので、困る。
- ・勝ち負けにこだわりすぎて興奮し、後の授業まで引きずる。

#### ② 対象児童の気持ち

- ・負けたくない。
- ・サッカーのことなら何でも聞いて。
- ・本当は一緒にやりたい。
- ・（問題行動を起こしてしまうのを）認めたくない。
- ・（サッカーが上手にできないのは）自分の手足が悪いんだ。
- ・パスしたいけど、パスの仕方がわからない。

#### ③ 支援方法

- ・対象児童はルールに詳しいので、みんなの前でルール説明をしてもらうことによって、（本児が）ルールを守れないことへの対応法とする。
- ・パスの練習を入れる。練習はできるだけ、具体的な指示やルールを決めて行う。勝ち負けにこだわるのを助長しないためにも、練習はチーム対抗にしない。練習のチーム対抗戦で負けると、その後のゲームで意欲がわかなくなる可能性がある。
- ・授業の始まりや終わりに、前回よりよくなったことを全員で発表し合う場面を作ると、勝負にばかり執着するという視点ではなく、違った見方に目を向けられるようになるのではないかと。

## (2) 小学校総合的な学習の時間

ADHDの対象事例を一つあげ、総合学習の授業場面（バリアフリーについて調べ、発表する）で起こりそうな「困った」行動を教師の立場から予想し、その行動の理由を対象児童の気持ちになって考え、支援法を話し合った。

### ① 教師や友達にとって困った行動

- ・グループの中で、トラブルが多い。自分の仕事ができない。
- ・発表を静かに聞けない。教師の意図したもの以外に興味を示す。離席をする。
- ・教師に対して質問を繰り返す。

### ② 対象児童の気持ち

- ・何をやっていいのかわからない。上手くできなくて叱られるから、やりたくない。
- ・発表を聞くことがつまらない。同じことの繰り返し。障害者に対して興味が持てない。
- ・わからないから聞いている。ちょっと待って、というから「ちょっと待って」から聞いている。

### ③ 支援方法

- ・対象児のできることを具体的にグループの友達に伝える。
- ・発表する側へ、写真を大きくする、文字をくっきり書くなど発表法の工夫を促す。
- ・障害を絞ったり、体験したりして興味を持てるように工夫する。
- ・「ちょっと」では伝わらない。具体的に「〇分まで待って」などと示す。同時に短い時間から待てる時間を伸ばすようにする。

## (3) 中学校 日常生活、学校生活

発達障害をもつ生徒の支援方法について考察を行った。

配布されたワークシートに、担当している生徒の気になる行動を思い出しながら、自分の思いどおりにいかないときの暴言や暴力、人への責任転嫁や捨てぜりふ、問題行動などを書き込んだ。

次に、障害による特性とその理解・配慮事項について、ADHDと広汎性発達障害をもつ子供が起こすトラブルや支援方法、衝動性による悪循環、支援の基本的な姿勢などの説明をした。問題行動のみに注目すると支援の方法が適切でない場合もあるため、常に発達障害の特性を振り返り、支援方法を確認する必要性について説明した。

最後に、ワークシートに記載した事柄を振り返り、努力をしているのに認められない悲しさや怒りなど、背景にある生徒の気持ちを想い、生徒が認められることで徐々に成長していける支援の方法を見つけ出していくことを確認した。

## 3 まとめ

### (1) サポートブックの活用

学校と家庭が共通理解をして支援をするためのツールとして有効。愛知県教育委員会から「アイブック」というサポートブックのひな型が提示されている。

### (2) 二次障害について

成功体験を増やし、自尊感情を育てる。自己肯定感を育むことで二次障害を防ぐ。

### (3) おわりに

- ・子どもたちは一人ひとり違う。それぞれのニーズに合った支援をどのようにしていくかが大切。
- ・学校と保護者の信頼関係が必要不可欠。保護者の悩みを聞き共感的対応をしていく。
- ・子どもたちへの支援は個人ではなくチームで取り組むことが大切。独りで背負わない。
- ・先生のリフレッシュ、気持ちの落ち着きが、子どもたちの居心地の良いクラス作りにつながる。